丹高ニュース

№6

令和5年7月19日（水）

～　豊かな学びの実現　～

高校野球選手権愛媛大会2回戦

先手の丹原 競り勝つ

宇和島東 終盤力尽きる

▽2回戦（11時29分）

丹原	010	010	020	4
宇和島東	000	011	010	3

▽本塁打 定成 ▽二塁打 越智健、行本、定成、浅田 ▽犠打 丹4（越智健、定成、今井、野口）宇5（曽根、善家2、山口、高岡）▽盗塁 丹0、宇0 ▽失策 丹2（越智健、岡田）宇0 ▽捕逸 定成 ▽球数 野口110、善家136

▽審判 球審 赤瀬 ▽塁審 高木、平田、岡 ▽試合時間 2時間28分

【評】丹原が先手を取って競り勝った。二回に定成の本塁打で先制し、五回に1点を追加。同点の八回には行本、定成の連続適時二塁打で勝ち越した。先発の野口はコーナーを果敢に攻め、相手にリードを許さなかった。

宇和島東は相手を上回る9安打を放ち、一度はビハインドから追い付く粘りを見せたが、終盤に力尽きた。

″最後まで抑える″

○…ノーシードながら優勝候補の一角と目された宇和島東が初戦の2回戦で姿を消した。新型コロナウイルスの影響でチームは開会式を欠場するなど万全のコンディションでない中、終盤まで食い下がったが1点差に泣いた。

大会屈指の好投手善家は10三振を奪う一方、本塁打を浴びるなど4点を失った。九回途中に足がつったものの「最後まで自分が抑える」とマウンドに立ち続け、気迫の2者連続三振。裏の攻撃に逆転の望みを託したが、かなわなかった。

善家は「2年半、つらいことも楽しいこともあった。このメンバーで最後まで試合ができてよかった」と気丈に話した。

【丹原―宇和島東】丹原8回表2死二塁、定成（中央）が適時二塁打
4―2とリードする＝西条ひうち球場（撮影・和田亮）

	3 2 0 1 6	26	13	12	3 6

【連　合】	打	安	点	振	球
④浜田	3	0	0	2	0
⑤白石	3	1	2	1	0
①川人	2	1	0	1	1
⑥洲崎	3	0	0	1	0
⑦柴	2	0	0	1	0
③塩見	1	1	0	0	1
⑨日野	2	0	0	0	0
②伊藤	2	2	0	0	0
⑧金平	1	1	0	0	0
犠盗失併残					
1 0 2 0 5	19	6	2	6	2

投手	回	打	安	振	球	責
丹下	3	11	2	2	1	0
村上	2	11	4	4	1	2
川人	5	35	13	3	6	10

【丹　原】	打	安	点	振	球
⑥越智健	4	2	1	1	0
⑨佐伯	4	0	0	1	0
③越智航	3	0	0	0	0
H3越智幹	1	0	0	1	0
⑤行本	3	2	1	0	1
②定成	3	2	2	1	0
⑦黒川	4	2	0	2	0
⑧今井	2	0	0	1	1
①野口	2	0	0	1	1
④岡田	3	0	0	2	1
犠盗失併残					
4 0 2 0 6	29	8	4	10	4

【宇　東】	打	安	点	振	球
⑧桜井	5	1	0	0	0
④曽根	4	1	0	0	0
⑨兵頭	5	1	0	0	0
⑤清水	3	1	1	0	1
⑦浅田	4	1	0	0	0
③豊岡	3	1	0	0	0
R3梶田	1	1	1	0	0
①善家	2	1	0	0	0
⑥山口	3	1	0	1	0
②高岡	3	0	0	1	0
犠盗失併残					
5 0 0 0 9	33	9	2	2	1

強豪連破「大きな一勝」 丹原が新風

丹原が初戦の小松に続き２回戦でも強豪の宇和島東を接戦の末に破った。エースで主将の野口は「格上の相手に対し、全員でつかみ取った大きな一勝」と声を弾ませた。

大会屈指の相手エースに、強烈な先制打を浴びせたのは定成。二回、スライダーを捉えた打球は大きな弧を描き左翼スタンドへと吸い込まれた。

「打った瞬間は（本塁打の）感触はなかった。ベンチやスタンドの応援がボールを運んでくれた」。八回に決勝打も放った打のヒーローは、喜びをかみしめた。

投げては左腕の野口が２戦連続完投。六回に同点を許したが「締めるところは締められた」。右打者には内角、左打者には外角の厳しいコースを突いて、相手に流れを渡さなかった。

野口は「コツコツと点を積み重ねていく自分たちの野球ができた。次も厳しい戦いになると思うが、このチームで一つでも多く勝ちたい」。混戦が予想された大会に、新たな風が吹き込んだ。

（清家康尊）

先制し、攻め、守り切り、
全員野球で勝利！
選手は健闘しました。
３回戦も応援をお願いします。

頑張れ、丹高！

令和５年７月19日（水）付け愛媛新聞
（掲載許可番号d20230719-01）